

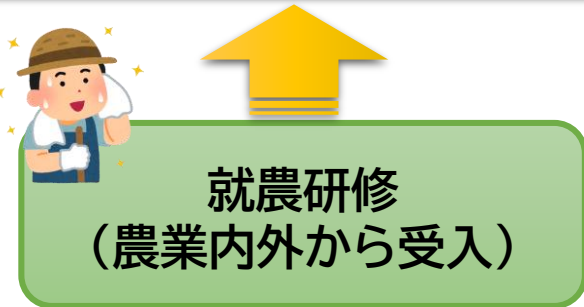
未来の青年農業育成事業について ～施策の体系～

本市農業において、農業者の減少と高齢化の進展が喫緊課題となっている状況を踏まえ、「①農業経営を志す若者や他産業から農業を志す若者」、「②高校生・大学生」、「③小・中学生」の各段階に対応した研修、教育事業を行うことにより、未来の青年農業者の確保・育成を目指す。



将来にわたって、本市の農業を担う青年農業者を確保、育成

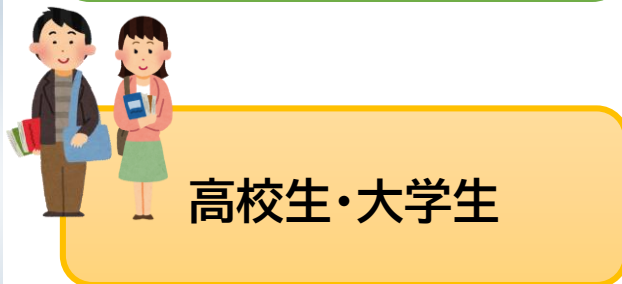
各段階に応じた施策を展開



★新規就農アドバンス研修

農業経営を志す若者、他産業の経験者を地域を牽引する農業者として育成

農政センターを研修の場として、農業内外から農業経営者を目指す若者が、農業経営や生産技術を学ぶとともに、本格就農に向け、インキュベーションファームでの営農を経験



★若年層と農業者のマッチング

将来の就職先を考える世代に、職業選択の一つとして農業との交流機会を提供

実際の農業経営者のもとで、交流と就労体験を行うことで、地域経済を支える職業としての農業を体験



★次世代向け農育講座

感受性豊かな子どもの頃の体験に農業を印象づけ、農業者を「将来やりたい仕事」の一つに

農政センターを教育の場として、植物や生物など、自然に触れ合いながら学問的に農業を子どものころから学ぶ場を構築

【事業のポイント】

本事業における研修は、1年間のプログラムを展開し、本市でのスムーズな就農を目指します。イチゴもしくはトマトでの新規就農者を育成するもので、農政センター内におけるインキュベーションファームでの疑似経営と、技術や経営を軸とした講義による専門知識など、営農実践に役立つノウハウを習得していただき、地域を牽引する農業者としての人材を育成します。

【実施内容】

- 令和4年1/12～12/20で研修実施
- 農政センターの温室・ビニールハウスを用い、イチゴ2名、トマト1名の研修生を受入れ。
- 応募資格を研修開始時点で45歳未満とし、研修修了後は千葉市内での就農を要件とする。
- 研修生は栽培から販路確保までを自ら計画、実施できることが要件
- 研修費用170,000円が必要。

【研修内容】※研修状況により変更あり

- 年間スケジュール

<イチゴ>		<トマト>	
1～5月	: 収穫作業の実習	1月	: 栽培管理の実習
6～8月	: 片づけ、育苗の実習	2～6月	: 収穫の実習
9月	: 定植作業の実習	7～8月	: 片付けの実習
10月	: 栽培管理の実習	9月	: 播種の実習
11月	: 親苗定植の実習	10月	: 鉢上げの実習
12月	: 収穫の実習	11月	: 定植の実習
		12月	: 栽培管理の実習

【研修イメージ】

1 研修生が、農政センターの温室・ビニールハウスを活用し、経営シミュレーション



- ・ 実習、座学を織り交ぜた生産～販売に係る網羅的かつ実践的な指導
- ・ 研修生が自らの経営を考える場を提供



即戦力となる若手農業経営者を育成

- 座学講義 生産～販売等に係る内容、年36コマを実施
- 現地農家研修 年12回実施
- 技術フォローアップ 年24回実施
- メンターフォローアップ 週1回実施
- 就農準備 千葉市のバックアップのもと、農地探しや設備・資金計画の立案等をサポート

【受託事業者】

株式会社マイファーム（京都市）



【事業のポイント】

職業選択を考える若者が、千葉市内の農業者と交流することで、将来の就農意欲を含め、農業に対する意識や課題に及ぼす影響を把握するものです。人手不足で困っている農業者と農業や地域に関心の高い若者を繋ぐマッチングプラットフォームを利用し、若者が農業をお手伝いすることで、将来の就農への意欲を持つきっかけづくりを創出します。

【実施内容】

- 対象は大学生、高校生等の20代以下の若者
- オンライン上のマッチングプラットフォームにより、作業を依頼したい農業者と、交流を行いたい若者をマッチング。
- 参加した若者は作業日に農業者を訪問し、依頼された作業を行うとともに、様々な交流を行う。
- 作業をした若者には報酬が支払われる。

【実施時の様子】



ちはる農園（若葉区）：いちご苗植え付け



あんばい農園（緑区）：落花生収穫



【主な実施農業者】

○ ちはる農園（若葉区）

内 容：イチゴの苗の植え付けのお手伝い
 実施日：9月19日（日）
 参加数：6名

○ ベジフルファーム（緑区）

内 容：小松菜の出荷や収穫のお手伝い
 実施日：9月29日（水）
 参加数：2名

○ Farm MoWG（花見川区）

内 容：キャベツやブロッコリーの定植作業のお手伝い
 実施日：9月26日（水）、9月30日（木）
 参加数：各2名

○ あんばい農園（緑区）

内 容：落花生の収穫作業のお手伝い
 実施日：10月4日（月）
 参加数：2名

【現在募集中の農業者（10/14時点）】

○ 長崎農園（緑区）

内 容：生姜等の収穫作業のお手伝い
 実施日：10月20日から随時（四日程）
 参加数：8名

※今後、他の農業者も随時実施予定

【受託事業者】

株式会社おてつたび（東京都渋谷区）

【事業のポイント】

小学生及び中学生を対象に、本格的な農学の講座や農政センターとの連携による実習を通じて、植物や昆虫などに興味のある子どもたちに身近な体験をしていただき、農業への関心を高め、大人になってなりたい職業として農業を選択するきっかけづくりを目指します。

【実施内容】

- 講座名を「What is 農？」として実施
- 事業対象を①小学3・4年、②小学5・6年、③中学1・2年生にクラス分け。
- 第1期を夏休み期間中の8月に実施
第2期を10～12月にかけて実施
- 募集については市内小中学校にチラシ配布により実施

【実施時の様子】



養蜂体験～ハチを探せ！～



ドローン・トラクター～働く機械を体感せよ！～



ラッキョウ組織培養



畑の中の生き物を探せ！

【講座内容】※小学生は3,4年、5,6年に分けて同名で開催している講座がある

第1期（夏期）全9講座※

- 小学3～6年生対象
 - 8/4 「養蜂体験～ハチを探せ！～」
 - 8/18 「畑の中の生き物を探せ！」
 - 8/25 「野菜で染めよう」
- 中学1・2年生対象
 - 8/3 「土がなくても野菜が育つ？～水耕栽培～」
 - 8/17 「養蜂体験～ハチの働き方～」
 - 8/24 「ドローン・トラクター～働く機械を体感せよ！～」

第2期（秋冬期）全9講座※

- 小学3～6年生対象
 - 10/24 「食べているのはどの部分？」
 - 11/23 「果樹と野菜のちがいは？」
 - 12/25 「味噌って何からできてるの？」
- 中学1・2年生対象
 - 10/2 「ラッキョウ組織培養」
 - 12/11 「生ごみが野菜を育てる？～コンポスト～」
 - 12/12 「魚が野菜を育てる？～アクアポニックス～」

【受託事業者】

株式会社マイファーム（京都市）

